

## ロボットコンテスト開催 -目指せ第2の志田博士!-

平成22年12月25日(土)、多久市内の小学4年生～6年生を対象に、多久市立中央中学校技術室で開催されました。

実行委員の大串隆祥先生(東部中学校)が「工夫して作ってほしい。」と作業説明を終えると、児童たちは弾けるように作業を開始しました。県大会優勝経験のある中央中学校科学部の生徒の協力も得ることができ、ロボット製作はスムーズに進みました。餌に見立てたフィルムケースを取り合う試合は、60秒という短い時間ながらも白熱。不慣れな操作に声を掛け合いながら協力し夢中になる姿に、保護者も身を乗り出して観戦していました。

参加者は、緑が丘小学校からの2チーム6名と、納所小学校からの1チーム3名。参加条件などの見直しが課題として浮き彫りになりましたが、参加できなかった児童や保護者の方々が近くで見守り、会場は終始アットホームな雰囲気。悪戦苦闘しながらも楽しむ子供たちの姿に、会長の横尾俊彦多久市長も「思わず童心にかえた。」と講評を寄せました。

また科学部の生徒によるデモンストレーションも行われました。カップを積み上げるロボットの細かい動きに、児童のみならず全員が見入り、技術の高さに感心していました。



▲参加者全員での集合写真



▲試合中の様子

終了後に行われた反省会では、参加費や開催日(時期)の見直しが必要であることなどが話し合われ、そのほかチーム構成の変更やロボットの故障などに対応する準備も必要との意見が出ました。

## ■第2回 理事会・企画委員会 開催 H22.12.17(金)

中央公民館視聴覚室で第2回理事会・企画委員会が合同開催されました。会長の横尾俊彦多久市長、副会長の牛島和廣市議会議長はじめ理事、企画委員、ロボットコンテスト実行委員、事務局合わせて15名が参加。後日行われたコンテストの変更点や課題、会員拡大などについて話し合いが行われました。

コンテスト参加を見送った児童からは「参加費が高い」「個人での参加がいい」といった意見が聞かれましたが、今回は参加条件の変

更は行わず、参加費とは別に有料にしていたリモコン等をプレゼントすることが決定されました。今後また、参加条件等の直しが必要なようです。

会員拡大については、募集チラシや、多久市外の方を勧誘しやすいように、顕彰会の銀行口座がほしいとの意見が寄せられました。現在、作成中です。会報に募集案内の記載がほしいとの意見もありましたので、今号より載せております。

## ■企画委員・ロボットコンテスト実行委員 紹介

前号に引き続き、第1回の役員会で決定した企画委員と、ロボットコンテスト実行委員の皆さんを紹介します。(順不同、敬称略)

### ●企画委員

原敏朗 (中央中学校長) 江頭一寛 (東部小学校長) 江口吉則 (市教育委員長)  
最所和泉 (文化連盟副会長) 川副春海 (NBC ラジオ佐賀) 野北悟 (市議会議員)  
野田勝人 (市議会議員) 志佐喜栄 (郷土資料館)

### ●ロボットコンテスト実行委員

原敏朗 (中央中学校長) 江頭一寛 (東部小学校長)  
平安寺優 (東部中学校教頭) 大串隆祥 (東部中学校技術科教諭)  
柴田精治 (西溪中学校技術科教諭) 藤田浩巳 (中央中学校技術科教諭)

## 志田林三郎をめぐる人々 ~ 第2回 草場船山 ~

草場船山 (文政2~明治20 1819~1887) は幼い頃から学問に秀で、19歳で東原庠舎の教官となります。その後江戸の昌平黌へ進学、嘉永4年(1851)帰郷して東原庠舎の教授となりました。若くして全国に知られた漢学者であり、東原庠舎に務めるかたわら開いた家塾「千山楼」には遠く奥州仙台からも学生が集まっています。

船山は東原庠舎で学んでいた志田林三郎少年の才能に驚き、次の漢詩を贈りました。



漢更算齋  
書喜数齡  
史今響早  
記年心巳  
略僅胸称  
能十二臆  
通二中童

「とても幼いころから神童と呼ばれている、算数はその胸の中で響くようだ、さらに喜ばしいことに今年僅か12歳であるのに、漢文の書籍や歴史書をほとんど読んでしまった」

この詩からは、算術に留まらない林三郎の才能の豊かさがうかがえます。

林三郎は長じてのち、詩吟を好みまた漢詩も巧みで自作の詩を集めた詩集(現存しない)を作るほどでしたが、優れた漢詩人でもあった船山が手ほどきをしたのかもしれない。

船山は明治以後、京都に招かれ東西両本願寺で漢学の講義を行うかたわら私塾「敬塾」を営み、多くの人材を育てました。享年68歳。京都知恩院に葬られています。

多久市郷土資料館内 担当：志佐喜栄 [企画委員]

〒846-0031 佐賀県多久市多久町1975 tel,fax/0952-75-3002

## ◆志田林三郎博士顕彰会 会員募集中

当顕彰会では、多久の知られざる先覚者・志田林三郎博士の功績をより多くの方に知っていただくために、情報を発信していきます。会の趣旨に賛同し、協力していただける会員を随時募集中です。

詳しくは志田林三郎博士顕彰会事務局まで。

発行：志田林三郎博士顕彰会事務局

〒846-8501

佐賀県多久市北多久町小侍大字小侍7番地1

tel/0952-74-3241

fax/0952-74-3284

多久市中央公民館内 担当：戸川/福島/川内丸

